

19m10  
教育方法論m

# 班別討議



# 1学力をどうとらえるか



# 全体発表

## 教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第10回

### 各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ  
 班のテーマ (学力とどうとろえるか)

#### ■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ( )

「できる学力」

- ・ 定型的な手続的知識やスキルを対応可能
- ・ 反復による短期的な向上が可能
- ・ 「できる」の経験は手続的知識・スキルによる自動化

「わかる学力」

- ・ 概念的な理解やそれに関わる思考プロセスを表現可能
- ・ 相対的に長期的なプロセスが必要
- ・ 「わかる」という経験は知識が再構成される中でいろいろ喚起される

「できる学力」「わかる学力」は相互に影響している

#### ■肯定的 web (指導要領解説)

まとめ ( )

- ・ 学習能力の育成は生徒に向き合い理解しているか、向かっているかについての様々な問いが現れる
- ・ 技能についても、技能を身につけながら、新たな技能が既知を関連づけたらいい

#### ■否定的 web (学力と考える...)

まとめ ( )

- ・ 「学力がある人」=「学力がある人」 「学力がある人」=「学力がある人」ではないこと
- ・ 「学力は知識や技術だ」という学力観は狭義である
- ・ 「学力」の捉え方は個々で定義や意味が全く異なる

#### ■班としての要約

まとめ ( )

- ・ 大量の課題や時間をかけて生徒のためにならない
- ・ 「わかる」「できる」が伴わないので、それを本意とすると生徒に対応できない
- ・ 相互の実験や実習を用いた方がいいのでは?

キーワード	10~20語	明日中に	概念系統図
・ 学力	・ できる	・ わかる学力	・ できる学力
・ 能力	・ 対し	・ 長期的	・ 短期的
・ 狭義	・ 知識	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

# 教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

## 各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (学力をどうとらえるか)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (OECDの調査)

- ・ 2000年から3年に1回、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーを調査している。

→ 日本のこどもの学力が低下しているため、新しい学校教育を改善してきた。

■肯定的 web ( )

まとめ (調査結果を受け...)

- ・ 学習のプロセスの見直し
- ・ → 受動的な授業ではなく、「できる学力」、「わかる学力」と新しい考えを取り入れている。

■否定的 web ( )

まとめ ( )

- ・ どうやって勉強への意欲を出させるのか?

→ 他者との競争ではなく、知的好奇心や動機付けなどを促すことは重要である。

→ テストの良い悪いで判断しないようにする。

■班としての要約

まとめ ( )

- ・ 学校教育、授業づくりだけではなく、教員の子どもへのアプローチを工夫するべきである。

キーワード 10~20語 明日中に 概念系統図

- ・ OECD
- ・ 読解力
- ・ 科学的リテラシー
- ・ 数学的リテラシー
- ・ できる学力
- ・ わかる学力
- ・ 授業づくり
- ・ 学習プロセス
- ・ 知的好奇心
- ・ 内発的動機付け
- ・ 心理学
- ・ PISA調査

# 2できる学力を高める



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (で学ぶ力を高める)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ( )

- ・ 高めるためには一定の手続きを繰り返す
- ・ また、教師と生徒が対話を通して一定の手続きを繰り返す集団的に

↓  
その手続きを個人が定型的問題に適用する  
一方、苦手な手にはその手続きを理解するための  
具体物やモデルなどを用いて少人数教室などの  
「個人に合わせた指導」も有効。

■肯定的 web (各層大教育学部付属中高)

まとめ ( )

- ・ 暗記型ではスキルの弱い生徒も協同的
- ・ 探究学習においては個々の発想を生かして
- ・ 積極的に授業に臨むことができると同時に
- ・ 自己肯定感を高めることもできる

■否定的 web (岡田市学力向上推進委員会)

まとめ ( )

- ・ で学ぶ力とわかる学かはともに垂用であり
- ・ どちらか欠けてはどちらの学かも望めない

■班としての要約

まとめ ( )

- ・ で学ぶ力を高めるためには繰り返し効果あり

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ 一定の手続き	・ 具体物	・	・
・ 自動化	・ モデル	・	・
・ で学ぶ	・ 少人数教室	・	・
・ 対話	・ 個人に合わせた指導	・	・
・ 定型的問題	・	・	・

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (できる学力を高める)

■テキスト(新しい時代の教育方法)

まとめ ( )

- ・一定の手続きを繰り返して適用する。
- ・ $\rightarrow$  ① 教師と学習者の対話を通じて一定の手続きをクラスで集団的に構成するのと

② 手続きを個人が定型的問題に適用するのを高める

3) BUK  $\rightarrow$  定型的な手続きも獲得するのが難しい場合の「個人に応じた指導」を行うことも有効である。

■肯定的 web ( )

まとめ ( )

- ◎ できる学力がのびると、解法が1つに決まるような
- ・ 問題の正答率が上がる
- ◎ 「できること」で意欲向上につながる。
- ◎ 日米国際的「できる学力」は高い

■否定的 web ( )

まとめ ( )

- ◎ 日本は「できる学力」に対して「Bの学力」が
- ・ 相対的に低い
- $\rightarrow$  できる学力として、手に入れた知識が
- 概念理解を深めることができていない。

■班としての要約

まとめ ( )

- ・ できる学力を高めるためには
- ・ 繰り返して覚えてから定型的問題にも適用していくことが重要である。

キーワード 10~20語 明日中に 概念系統図

- ・ 手続き
- ・ できる学力
- ・ ちがひ学力
- ・ 定型的
- ・  $\rightarrow$  返身
- ・ 国際的に高い
- ・ 意欲向上
- ・ 満美
- ・ 概念理解
- ・ 定型的知識

# 3わかる学力を高める



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (「わかる学力」を高める)

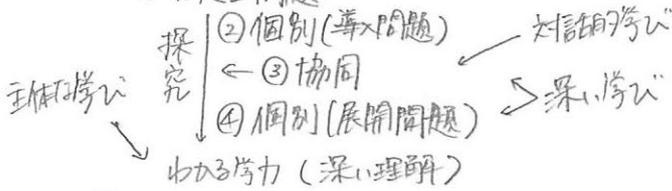
■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ( )

- 1970年代までの授業の背景には ①問題を理解する
- ②計画を立てる
- ③計画を実行する
- ④振り返りをする

アメリカ ←→ 日本 (フィードバックの仕方)  
個人 集団全体

①非定型問題



■肯定的web (指導要領)

- まとめ ( )
- 指導要領の改訂を踏まえた学校の教育活動
  - 全体を通じた答えが一つでない課題を他者と
  - 協働しながら自分の答えを見い出すことを行う。

教科への関心が低い問題の解決方法

→「問題解決の授業」が1人2人の学習者の問題解決という場面での検討の重視こそその発達から教材や授業の構成を考へる必要がある

■否定的web (「わかる学力」は?)

まとめ ( )

- 非定型的な問題や判断の理由を説明したことがある
- 問題に対しその解決に必要な概念的な理解や
- 自分自身の思考プロセスを表現する

■班としての要約

まとめ ( )

- 国ごとにあって教師から子どもへのアプローチが違う
- 「わかる学力」とはある問題に対し知識を利用し、その問題へのアプローチの仕方が説明できることだ

キーワード	10~20語	明日中に	概念系統図
授業	問題	理解	計画
実行する	立てる	振り返り	個人
集団全体	アプローチ	思考加工	わかる学力
協働			

# 教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

## 各班ワークシート複数資料用(まとめ)

### 1) (班内) まとめ

班のテーマ (「わかる学力」を高める)

#### ■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ( )

- ・ 「わかる学力」 = 概念的的理解
- ・ 促進するには、
  1. 1人ひとりの子どもが探究を通じて多様な知識を関連づけること
  2. 他者と協同する中で自分と他者のもつ多様な既存知識を活用し関連づけること

#### ■肯定的 web ( )

まとめ ( )

- ・ 協同的探究学習
- ・ 個別探究過程
- ・ +
- ・ 協同探究過程

思考プロセス, 意味理解  
社会的相互作用の3点を重視するところにある。

→ 主体的・対話的・深い学び

#### ■否定的 web ( )

まとめ ( )

#### ■班としての要約

まとめ ( )

- ・ 「わかる学力」を「わかる学力」に還元できるようにアクティブラーニング
- ・ 「主体的・対話的・深い学び」を行うことが必要である。

キーワード 10~20語 明日中に 概念系統図

- ・ できる学力・わかる学力・概念的的理解 協同的探究学習
- ・ 個別探究過程・協同探究過程 思考プロセス・意味理解
- ・ 社会的相互作用 主体的・対話的・深い学び
- ・ 学習指導要領 反復 知識の関連づけ

# 全体発表 (ICT活用例)



# 教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

## 各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ ( ICT 活用 )

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

義務教育課程

英語 (外国語活動)

■目標、内容・指導の概略等

単語と絵の結び合わせ、

2:2=7-10と7-11を比べて、  
他国の人との交流、

発音の判定ソフト。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

① 英語に対する興味関心を高める。

② 学習効果を高める。

③ 進捗確認/課題発見の役立ち

■工夫した点、出典等

文部科学省

「英語教育における

ICT の活用」

2014年5月2日

# 教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第10回

## 各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ ( 理科 )

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

中学3年 or 高校3年

進路に活用してもらう。

一応中学2年や高校2年でも対応できる。

■目標、内容・指導の概略等

専門職の仕事を見せる

↓

知識が増える

↓

将来の道へ

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

事前に生徒に、興味の本分野を聞いておく。

資料作りや、相手方との交渉に活用できる。

■工夫した点、出典等

・他の教科書でも活用可能。

・仮設ないし「知った」ことか  
できる。

・教師も考へる

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて 自分の班の取

4\*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全

# 全体発表(確認問題9)



各班ワークシート(確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ

各問のポイント

■問1

- ・スモールステップの原理
- ・ヒント後退の原理
- ・積極的反応の原理
- ・即時フィードバックの原理
- ・自己ペースの原理

■問2

記憶、やりとり、解決手続き、状況、  
行為、行動調整、存在、自信、  
認知過程、モニター

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと

■問3

曲豊は知識が形成されることをベースとして  
一般的に推理能力が育成されると考え  
られており、品詞的な学習環境を  
組織して探究活動を進めることと適  
じて、概念的な理解を深めさせること。

■問4

足場かけとは、おとなが子どもの遂行を  
高めるように支援を行い、それによって  
子どもに活動範囲を広げ、独力で  
解決できるようにし、そしておとなは子  
どもの水準に合わせて支援の程度を減  
らしていくことである。

各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ  
各問のポイント

■問1

- スモールステップの原理
- ヒト後退の原理
- 積極的反応の原理
- 即時フィードバックの原理
- 自己ペースの原理

■問2

記憶, ヤリとり, 解決手続き,  
状況, 行為, 行動調整, 存在  
自分, 認知過程, モニター

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと

■問3

現在の認知科学や学習科学における基本的な方向性を示している。

最近の学習科学では領域内の豊かな知識が形成されることをベースとして一般的の推理能力が育成されると考えられ、協調的な学習環境を組織して探究学習を進めることを通じて、その領域の概念的な理解を深めさせることが重視されている。

■問4

足場かけとは、子どもの遂行を高めるように大人が支援を行い、それにより子どもは活動の範囲を広げ、1人でできなかった問題を独力で解決できるようにすること。

\*\*\*) 確認問題に取り組み、確認問題に取り